『これからの5年を考える』

山之口地区社会福祉協議会　会長　有川　俊一郎

山之口は、これから５年の間に県陸上競技場建設を中心に町が大きく変わっていきます。変わりゆく中で、地域の人々、特に高齢者、弱者に対してサロン活動やこけない体操などの地域のつながりを増やすための活動を基本にみんなで頑張っていきたいと思います。

山之口地区社協　これからも続けていきたい活動

６地域公民館長・民生委員児童委員合同研修

令和元年度は、「タイムトラベルボード 10 年後の地域の状況について考える」と題して 10 年後の地域課題の共有と意見交換を行ないました。令和２年度は、住民主体のたすけあい（生活支援）について、学ぶ予定でしたが、開催できなかったため、来年度も同じテーマで取り組んでいきます。

いきいきサロン全体研修

例年、仲間づくり、健康づくり、交流の場づくりを目的に一堂に会して実施していましたが、今年度は、コロナ禍で開催日を２日間に分けて人数も制限しフラワーアレンジメントを実施しました。外出もままならない中、花を扱うことで集中しリラックスできたとの声が聞かれました。

学習支援事業

令和元年度は、「夏休み子ども教室」として 12 日間、令和２年度は、コロナ感染拡大防止のため「夏休みふれあい絵画教室」として２日間実施しました。子どもたちの学びを保証する取り組みとして来年度以降も開催方法を工夫しながら取り組んでいきます。

生活援助員・日常生活支援員合同研修

調理実習を中心に食改善委員の指導のもと援助員と支援員の合同研修を実施しています。令和２年度は、男性の生活援助員の方の登録があり研修に参加していただきました。男性の援助員さんからは、今後、生活おたすけサービスの利用者を担当する上で大変参考になる研修でしたとの感想が聞かれました。

15地区地域福祉活動計画　山之口地区社会福祉協議会

山之口地区スローガン

すべての住民が、いつまでも住み慣れた地域で豊かに生きがいを持って生活するために

【基礎情報】（R2.5.1）

人口規模（住基人口）	全　体	6,027 人	世帯数	2,899 世帯
	男　性	2,841 人	自治公民館加入世帯	1,968 世帯
	女　性	3,186 人	自治公民館加入率	67.9%

【山之口地区の現状・課題】計画策定作業と「地域福祉に関するアンケート調査」結果より

１．地域づくり

・子どもたちの意識が学校の中から地域へ目が向き始めている
・学び、体験の機会がなくなっていることにより子どもたちが疲弊している
・高齢者が外出自粛に伴いＡＤＬの低下、ストレスの増加が見られる
・公民館行事、訪問活動が出来ない状況の中で公民館の存在価値が問われている
・コロナ禍でも公民館報を作成し月２回の各戸訪問を実施し安否確認を実施している

２．人づくり・つながりづくり

・地域住民の来校者の減少、保護者の来校の機会が減少した
・規模や人数を制限して学校行事を実施したことに対して地域の方から感謝された
・子どもたちのあいさつ運動が地域を変えている
・地域でリーダーになるような人材が居ない、育たない
・学習支援の実施期間を短くして実施せざるを得なかった

３．協議の場づくり

・若者との接点がなく参画がない
・ＰＴＡ連協との協働や参画が出来ていない
・若い年齢の方々の地域参画がない

４．しくみ・体制づくり

・民生委員児童委員の欠員地域が２か所、２名の欠員がある
・自治公民館の施設維持管理が難しい状況である（費用面と集えない状況の両面）
・地区社協の体制や仕組みの見直し、財源の強化が必要
・安否確認の機会が無いため身近な人たちとの繋がりが大切だと感じている
・地区社協の知名度が低い

山之口地区地域福祉活動計画

（計画実施期間・令和３年度～令和７年度）

計画スローガン（大項目）

すべての住民が、いつまでも住み慣れた地域で 豊かに生きがいを持って生活するために

中項目	小項目	具体的な取り組み内容
1　自治公民館単位で住民同士が助け合い健康で幸せな生活をおくることができる（地域づくり）	1 - ①公衆衛生に配慮し交流の場所が常に使える状態で複数展開できるように支援する	継続）・いきいきサロン活動支援・全体研修開催 継続）・地域敬老大会支援・学習会開催支援
	1 - ②公共施設及び施設跡地利用を住民流の目線で考え利用できるように支援する	新規）・文化的・芸術的・伝統芸能的な活動の発信と広報活動
	1 - ③学校行事及び生徒、先生の活動を支援しサードブレイス（地域の居場所）運営を支援する	継続）・夏休みこども教室開催（学習見守り支援） 継続）・小中学校花いっぱい活動支援 新規）・農業体験活動支援 新規）・サードブレイスの情報発信、活動支援
	1- ④子育て世帯を支援する取り組みを支援する（気になる子どもの世帯と繋がる）	継続）・食材寄付の取り組み（民生委員）
2　「助けて」を求めやすい住民同士のつながりがある（人づくり・つながりづくり）	2 - ①世話焼きさんを発掘する取り組み	継続）・生活援助員の発掘及び養成研修の実施
	2 - ②助けられ上手な人を増やす取り組み	新規）・住民力アップの勉強会（世代間の意見や情報交換）
	2 - ③地域のリーダー育成の取り組み	新規）・住民力アップの勉強会 新規）・コロナ禍で露呈した差別の勉強会（人権学習会）
3　あらゆる年齢の全ての人の課題を話し合える場や機会がたくさんある（協議の場づくり）	3 - ①もっと豊かに生活するために地域のニーズを掘り起こす	継続）・生活支援コーディネーター定例会
	3 - ②同じ悩みを抱える当事者グループが集える	新規）・子育ての親の会のつどい
	3 - ③相談場所の新規開設（移動開設も含む）	継続）・福祉なんでも相談窓口 新規）・福祉なんでも出張相談窓口（アウトリーチ型）
4　住民の活動を後方支援する組織体制づくりを目指す（しくみ・体制づくり）	4 - ①自治公民館単位での住民流のたすけあいの仕組みづくりの支援	新規）・住民主体のたすけあいの仕組みの勉強会
	4 - ②新しい取り組みへの助成金支援、活動支援	新規）・使用目的を明確にした助成金の獲得
	4 - ③地区社協の寄付金による財源強化	新規）・寄付募集のチラシ
	4 - ④地区社協の知名度を上げる	継続）・あじさいだよりの発行→地区社協だよりの発行
	4 - ⑤多機関との連携強化を図る	新規）・定期的な振返りの実施